

# クラシック音楽入門講座

## 第3講 J.S. バッハと後期バロックの巨匠たち

講師：佐藤卓史

2022年1月23日(日) 小手指公民館分館

「クラシック音楽」の本質は「普遍性」、時間と空間の壁を超えること。  
ルネサンス時代、既に空間の壁(地域性)を超越した偉大な作曲家たちが存在した。  
そうした先人たちを措いて、なぜJ.S.バッハが「音楽の父」と呼ばれるのか？

### 1. J.S. バッハの生涯の概観

1685年3月21日、**アイゼナハ**(ドイツ中部)で誕生

・生まれながらの音楽家:代々続く音楽家一族 1735年時点で53名の音楽家を記録

音楽家に関わる社会領域:宮廷・教会・市民社会・教育

・生まれながらの宗教者:ルター派プロテスタントの中心地で生まれ育つ

カトリックとプロテスタントの違い・・・「教義」「礼拝音楽」「職業意識」

1694-95 両親を相次いで亡くし、**オールドルフ**の長兄クリストフに引き取られる

1700-02 **リュースブルク** ミカエル学校で学ぶ

1703-07 **アルンシュタット** 新教会オルガニスト

1707-08 **ミュールハウゼン** ブラジウス教会オルガニスト

1707.10.17. マリア・バルバラと結婚(～1720)

1708-17 **ヴァイマル(ワイマール)** 宮廷楽師・オルガニスト・楽師長(1714～)

1710.11.22. 長男ヴィルヘルム・フリーデマン誕生

1714.3.8. 次男カール・フィリップ・エマヌエル誕生

1717-23 **ケーテン** アンハルト＝ケーテン侯国宮廷楽長

1720.7.7. 妻マリア・バルバラ埋葬

1721.12.3. ソプラノ歌手アンナ・マグダレーナと結婚

1723-50 **ライプツィヒ** トーマス教会カントル・市音楽監督

1732.6.21. 息子ヨハン・クリストフ・フリードリヒ誕生

1735.9.5. 末子ヨハン・クリスティアン誕生

1749年頃から著しく視力低下。1750年3月28日～4月8日、イギリスの眼科医ジョン・テイラーの手術を受けるが、予後が悪く衰弱。現代の医学では、糖尿病による白内障の併発と考えられる。

1750年7月28日、ライプツィヒで**死去**(65歳)

### 2. J.S. バッハの作品

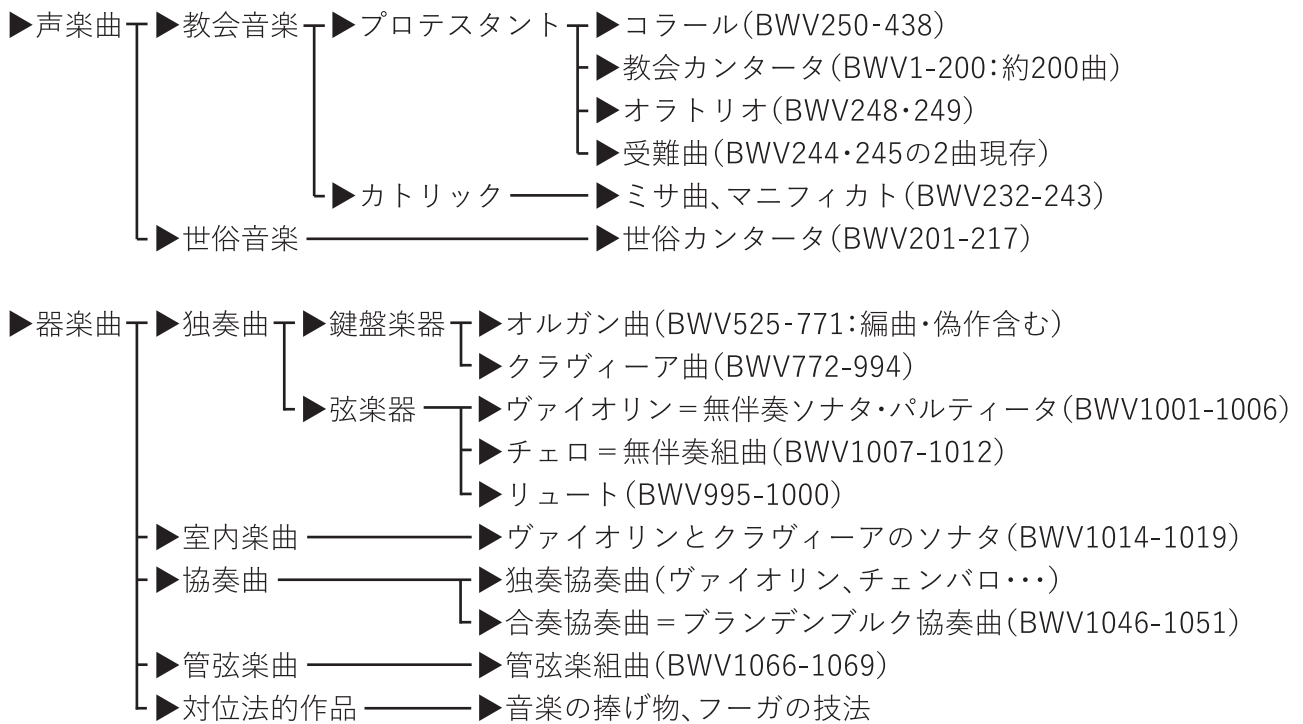
●BWV(バッハ作品目録)

1950年シュミダー(1901-90)が発表したJ.S.バッハの全作品の目録。1990年第2版。

1～1080(第2版1120)、Anh.(補遺)1～189(第2版205)を収録。

番号はジャンルごとに並べられており、作曲年代とは無関係(K番号やD番号と異なる)。

## ●作品の概観



## ●創作年代と作品の変遷

▶**オルガニスト時代**(1703-08) アルンシュタット・ミュールハウゼン 教会オルガニスト  
オルガン曲が多いが詳細不明。

1705 ブクステフーデを聴きにリュubeckへ旅行、休暇が終わっても戻らず咎められる。

♪ トッカータとフーガ ニ短調 BWV565(偽作説あり)

▶**ヴァイマル時代**(1708-17) 宮廷楽師・オルガニスト・楽師長(1714-1717)

人口5000人、約30名の宮廷楽団を擁する小都市。礼拝から晩餐・舞踏会の音楽まで幅広く担当。

領主一族に音楽愛好家も多く、イタリアの協奏曲様式やフランスの舞曲様式に開眼する。

後に完成する多くの作品の初稿をこの時期に着手したともいわれる。

♪ 小フーガ ト短調 BWV578 [⇒譜例1]

▶**ケーテン時代**(1717-1723) アンハルト＝ケーテン侯国宮廷楽長

音楽に理解ある領主のもと、実力派の楽師たちが集まる。カルヴァン派の侯国で、教会音楽は不要。

そのため多くの**世俗音楽**が生まれ、教育的作品もこの頃から作曲され始めた。

♪ **ブランデンブルク協奏曲** BWV1046-1051

コレッリ・テレマン風の合奏協奏曲。音色感の対比と躍動感が特徴。

♪ **無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ** BWV1001-1006

♪ **無伴奏チェロ組曲** BWV1007-1012

弦楽器独奏のための珍しい作例。ソナタはコレッリの**教会ソナタ**の様式を踏襲(緩急楽章の交替)。

【代表的なクラヴィーア曲】

♪ **フランス組曲** BWV812-817 [⇒譜例2]

バロック組曲。**アルマンド**(中庸)・**クーラント**(急)・**サラバンド**(緩)・**ジグ**(急)の定型宮廷舞曲に、さまざまな舞曲(**ギャラントリー**)を挿入した国際様式。同種に「イギリス組曲」「パルティータ」。

♪ **平均律クラヴィーア曲集** 第1巻 BWV846-869

西洋音楽で用いられる**24の長短調すべて**を網羅した史上初の作品集。

自由な形式の**前奏曲**と厳格な**フーガ**を組み合わせる伝統は20世紀まで受け継がれた。

♪ **インヴェンション**(2声)と**シンフォニア**(3声) BWV772-801

現在も用いられる教育的作品。「ヴィルヘルム・フリーデマンのための音楽帳」に初稿がある。

調号(#・b)4つ以内の15の長短調を用い、2声・3声の対位的展開を実施。作曲法の模範でもある。

【譜例1】小フーガ ト短調 BWV578

Fugue in G minor, BWV 578

フーガとは対位法に基づく多声音楽の一形態で、主題提示が5度上で繰り返される（主唱と答唱）のが大きな特徴。最も高度な対位法技術が求められる。

【定型舞曲】  
バロック組曲に  
必ず含まれる4曲

【譜例2】フランス組曲 第5番 ト長調 BWV816の舞曲配列

【ギャラントリー】  
組曲ごとに  
異なる種類の舞曲が  
サラバンドとジグの  
間に挿入される

1. アルマンド (ドイツ)  
中庸な4/4拍子
2. クーラント (フランス/イタリア)  
速い3拍子
3. サラバンド (スペイン)  
遅い3拍子
4. ガヴォット (フランス)  
中庸な2拍子
5. ブーレ (フランス/スペイン)  
快活な2拍子
6. ルール (フランス)  
遅い6拍子
7. ジグ (イタリア)  
速い4拍子、対位的

## ▶ライプツィヒ時代(1723-1750) トーマス教会カントル・市音楽監督

大都市ライプツィヒに新天地を求め、華やかな「宮廷楽長」から質素な「カントル」へ転身。

【前期】教会行事の責任者として、数多くのカンタータ、受難曲を上演。教育・出版事業にも携わった。

♪多数の**教会カンタータ**(最初の5年に集中)

「音楽による説教」。教会暦に基づき、宗教行事ごとに関連する内容のカンタータを上演する。

バッハは**コラール**を盛り込むことに執心。コラールには会衆が合唱で参加することができた。

♪**受難曲:マタイ受難曲 BWV244、ヨハネ受難曲 BWV245**

新約聖書の4つの福音書に描かれたイエスの受難(刑死)の物語に基づく音楽作品。

晩冬の聖金曜日(復活祭の前の金曜日)に演奏される習わしがある。

バッハは4福音書すべての受難曲を作曲したといわれるが、「マタイ」「ヨハネ」の2曲のみが現存。

いずれもオラトリオ風の劇的な表現が特徴。**人類史上最高の音楽作品**とも謳われる。

♪**クラヴィーア練習曲集 第1巻:パルティータ BWV825-830**

♪**クラヴィーア練習曲集 第2巻:イタリア協奏曲 BWV971+フランス風序曲 BWV831**

楽譜出版の本拠地ライプツィヒで積極的に自作を出版。4巻の「クラヴィーア練習曲集」がその嚆矢。

6巻のパルティータを収めた第1巻は大好評。第2巻はそこまでの注目を集めなかったが、

「**イタリア協奏曲**」は2段鍵盤のチェンバロで**イタリア様式の協奏原理**を表現した意欲作。

♪**管弦楽組曲 BWV1066-1069**

原題は「序曲」(Ouverture)。フランス風序曲とそれに続く舞曲や小曲からなる自由な組曲。

ヴァイマル・ケーテン時代の作品を市民音楽団体「コレギウム・ムジクム」のために改作したとも。

フルート協奏曲風の第2番、旋律的なエア(「G線上のアリア」)を含む第3番が有名。

♪カンタータ「おしゃべりはやめて、お静かに」BWV211(通称「**コーヒーカンタータ**」)

世俗カンタータの代表作。当時社会問題になっていたコーヒー依存症を題材にした喜劇。

「コレギウム・ムジクム」の演奏により、コーヒーハウスで初演された。

【後期】1740年頃からは助手に仕事を任せ、イタリア古様式の研究、旅や自分のための作曲に注力。

1741/47年には**ベルリン**のエマヌエルを訪ね、47年にはフリードリヒ大王を表敬。

♪クラヴィーア練習曲集 第4巻:**ゴルトベルク変奏曲 BWV988**

アリアとその低音主題による30の変奏からなる長大な変奏曲。最後に再び冒頭のアリアが回帰する。

3の倍数の変奏には**カノン**が置かれ、最終第30変奏は当時の流行歌を組み合わせた「クォドリベット」。

不眠に悩むカイザーリンク伯爵の委嘱によりバッハの弟子ゴルトベルクが演奏したという逸話から。

♪ミサ曲 口短調 BWV232(**口短調ミサ曲**)

カトリックのラテン語典礼文による大規模なミサ曲。全27曲、多くは以前の作品の転用。

声楽によるさまざまな対位法様式の総決算であり、宗教曲としても特別な位置にある。

♪**音楽の捧げ物 BWV1079**

1747年の訪問時、**フリードリヒ大王**から与えられた「**王の主題**」に基づく3声・6声のリチェルカーレ、

カノン10曲、トリオ・ソナタを収録。大王に献呈され出版された。

特にカノンの多くは解決が示されない「**謎カノン**」であり、読譜者による解釈が求められている。

♪**フーガの技法 BWV1080**

自作主題に基づく14曲のフーガ(コントラプンクトゥス)、4曲のカノン。対位法技術の集大成。

最終4重フーガは未完で中断、「作曲者はここまで書いて死去した」との書き込みから、

バッハの絶筆と考えられてきたが、実際には出版の準備も進んでいたことがわかっている。

## 3. 同時代の巨匠たち

### ●ジャン＝フィリップ・ラモー(1683-1764) フランス

クラヴサン音楽からオペラ・バレエ等の大規模舞台作品まで。「**和声法**」を著した理論家でもある。

### ●ドメニコ・スカッラッティ(1685-1757) イタリア→ポルトガル→スペイン

ポルトガル王女マリア・バルバラに仕え、555曲の鍵盤ソナタを作曲。

### ●ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル(1685-1759) ドイツ→イギリス

非音楽家系ながら25歳でハノーファー宮廷楽長に。しかし直後に渡英しそのまま無断で帰らず。

オペラ興行、英語オラトリオに進出し大成功を収めた。J.S.バッハと並ぶ**後期バロック最大の巨匠**。

### ●ゲオルク・フィリップ・テレマン(1681-1767) ドイツ

非音楽家系からハンブルクの音楽監督へ。流行に乗った平易な作風で当時最も成功した作曲家。

【譜例3】音楽の捧げ物 BWV1079

音楽愛好家のフリードリヒ2世がJ.S.バッハを宮殿に招き、与えた主題により6声のフーガを即興演奏しよう命じた。さすがに6声の即興は不可能として3声のフーガを即興で弾き（3声のリチェルカーレ）、後日改めて「6声のリチェルカーレ」を作曲して大王に捧げた。

第1曲「3声のリチェルカーレ」冒頭の「王の主題」



カノン1 (2声の逆行カノン)

Canon 1. a 2 cancrizans

先行声部を後続声部が模倣する「カノン」。曲集後半ではさまざまな特殊なカノンが展開されるが、全体の一部だけが記譜されていて、ヒントをもとに読譜者が「謎解き」を実施することになる。この「2声の逆行カノン」は、記譜上は1声のみ。ヒントとして末尾に左右逆さになった音部記号と調号がある。1人はこの楽譜を頭から（正行）、もう1人は末尾から（逆行）読むとアンサンブルが成立する。



【譜例4】フーガの技法 BWV1080

第1曲 コントラプункトゥス1 (4声のフーガ)

「答唱 (ソプラノ声部)」



第7曲 コントラプункトゥス7 (拡大形・縮小形による4声のフーガ)

「反行形 (ソプラノ声部)」



#### 4. J.S.バッハ、死後の継承から復活へ

##### ●4人の息子たち

- ・長男ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハ(1710-1784) 「ハレのバッハ」
- ・次男カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ(1714-1788) 「ハンブルク／ベルリンのバッハ」
- ・ヨハン・クリストフ・フリードリヒ・バッハ(1732-1795) 「ビューッケブルクのバッハ」
- ・末子ヨハン・クリスティアン・バッハ(1735-1782) 「ロンドンのバッハ」

J.S.バッハの作品を含むバッハ一族のコレクションはエマヌエルが継承し、ベルリンに保管。  
ヘンデルやテレマンに比べると知名度は低く、作品も**難解で古くさいもの**として忘れ去られていった。

##### ●メンデルスゾーンによる「マタイ受難曲」蘇演

1829年、ベルリンで20歳のメンデルスゾーンが「マタイ受難曲」を100年ぶりに上演。  
人々は知られざる傑作に驚嘆。これを機にバッハの音楽が発掘・紹介されるようになっていく。  
**「マタイ受難曲」とバッハは100年の時を経て蘇った。**

#### 5. 復活後のバッハ受容史

##### ●ロマン派の「素材」となるバッハ

- ▶リスト、ブゾーニなどヴィルトゥオーゾ・ピアニストによる「編曲」

♪J.S.バッハ／ブゾーニ：シャコンヌ

(無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 BWV1004より)

- ▶ヴィルヘルミの「**G線上のアリア**」(管弦楽組曲 第3番 BWV1068の「エア」を編曲)
- ▶ストコフスキーによる絢爛豪華なオーケストラ編曲

##### ●バッハ演奏と録音の歴史

- ▶**ロマンティック・バッハ** フィッシャーの「平均律」、メンゲルベルクの「すすり泣く」マタイ
- ▶**精神性の探求** 「バッハの再来」リヒター、グールド伝説の「ゴルトベルク」録音(1955/1981)
- ▶**古楽復興運動** レオンハルト、アーノンクール、コープマン
- ▶**現代のバッハ演奏**

#### 6. 「時代の壁」を突破したバッハ

各国の様式に通じ、「地域の壁」を超えたのは同時代の国際派作曲家たちも同じ。

しかし唯一「時代の壁」を突破し、復活できた理由は…?

- ①**生来の環境**: 音楽家一族の末裔として音楽の歴史を引き受ける覚悟
- ②**プロテスタント精神**: プロテスタント音楽への情熱、「天職」という教え
- ③**教育者の視点**: 次の世代に技法を残す明確な意図
- ④**時代**: 多声音楽の終焉を体感

次の100年、200年を耐えうる音楽…「**過去**」を**見つめ**、「**未来**」への**贈り物**として残した作品群。  
この「**照準の長さ**」=時間の広がり「**宇宙**」に喩えられる。

「時代の壁」を突破した音楽がやがて「**クラシック音楽**」に発展していく。

最初に突破したバッハは、まだ誰も超えられない最長記録保持者、すなわち「**音楽の父**」。